

一五七七番

秋あきの野のの 尾花をばなが末うれを 押おしなべて 来こしくも著しる
く 逢あへる君きみかも

一五七八番

今朝けさ鳴なきて 行ゆきし雁かりが音ね 寒さむみかも この野のの
浅茅あさぢ 色いろづ付きにける

一五七九番

朝戸あさとあ開あけて 物思ものおもふ時ときに 白露しらつゆの 置おける秋萩あきはぎ
見みえつつもとな

一五八〇番

さ雄鹿をしかの 来立きたち鳴なく野のの 秋萩あきはぎは 露霜つゆしもお負おひて
散ちりにしものを